はじめに

紅葉が舞い落ち、いよいよ肌寒い季節になりました。子どもたちも、実家から届いた暖かな衣類を嬉しそう に身に付け、「いつ降るかなあ」と雪を待ちわびて空をにらんでいます。

11月20日、利賀みらい留学センターでは、第一回収穫祭を行いました。収穫祭は、今年の収穫や自然の恵 みに感謝すると共に、入園からこれまで留学生が得てきた体験や心の収穫を表現し、お世話になっている皆さ まに感謝を伝える場として設けたものです。今回は感染症対策を考慮し、利賀の皆さま全体に来場のお声掛け をすることはできませんでしたが、保護者や受け入れ家庭の方、学校の先生方や友人たち、活動のご指導をい ただいた地域の方などに見守られ、開催することができました。利賀地域の皆さまには、改めて日頃のご支 援・ご協力に感謝すると共に、今後も温かい見守りをお願いいたします。

さて、収穫祭に至るまでには、多くの方のご協力はもちろん、子どもたち自身の大きな頑張りがありまし た。子ども民謡保存会に参加させてもらって取り組んできた子ども民謡の練習、一人一人の関心事に沿って利 賀ならではの体験を積んだ個人体験、留学生全員で心を合わせようと取り組んできた太鼓や民舞。楽しいばか りではなく悩む姿や焦る姿もありましたが、今できる精いっぱいを伝えたいと本番を乗り切った姿に、私も心 動かされるものがありました。次は来年 3 月の修園まで、改めて利賀地域の魅力と子どもたちの底力を信じ て、共に歩んでいこうと思います。

> 松浦 実穂



10月

23日 金剛祭(学習発表会)

24日 親子行事、焼き芋大会

25日 個人体験活動日

30日 利賀ダム見学

ホームステイ開始

11月

5日 センター入り

6日 ゆめ基金週末活動(~7日)

収穫祭準備(~7日)

13日 収穫祭準備(~14日)

20日 収穫祭

畑作業(畑の片付け) 23 🖯

赤かぶ漬け

〒939-2516 富山県南砺市利賀村坂上 18 南砺利賀みらい留学センター TEL: 0763-77-4103 FAX: 0763-77-4037

MAIL: nanto-toga-mirai@p1.tst.ne.jp

WEB: http://www.nanto-toga.com/

10/24 親子行事

【栃餅づくり】

あく抜きを済ませた栃の実をいただいたので、親子で栃餅を つきました。地域の方が指導に来てくださり、もち米や栃の実 を蒸すところから皆で行いました。親子ともども地域の方のお 話を聞いて、栃餅づくりの工程の大変さに驚いたり、「きれいな 色ですね!」と栃餅特有の色や香りを楽しんだりしていました。 3日分をついて丸め、あんこの栃餅やきなこの栃餅などを昼食 の一品にしました。



【そば打ち体験】

うまいもん館(センター近くのそば屋さん)へ行き、家族ごとにそば打ち体験をしました。作り方の手順を教えてもらい、「こんな感じかな…?」と家族で相談しながらそば打ちを進め、すべての家庭が無事に上手なそばを完成させました。工程の途中にプロの技を見て「すごい、あっという間に形でができていく」と話をしていたり、作り終えたときは「初めての体験で楽しかった!」「作ったそば早く食べたいね~!」と笑顔で話していたりと親子ともに充実している様子でした。



10/24 焼き芋大会

利賀村青年団の方と一緒に焼き芋を作りました。もみ殻を焼いてできた燻炭の中で焼き芋をしようということになり「なにこれ~?」「これで本当に作れるの?」と興味津々の様子でした。しかし、もみ殻の水分が多く、うまく熱することができなかったため、燻炭機から焚火での焼き芋作りに急遽変更。協力して火を起こして、芋を焚火の中へ。「どれぐらいで焼けるのかな?」「焦げてないかな?」と心配しながらできあがりをじっと待ちました。「熱い!」と言いながらできあがった芋を持ち、「おいしい!」とみんな満足そうに食べていました。



11/6 夕食づくり(ゆめ基金週末活動)

南砺市内から来た小・中学生と一緒に夕食作りをしました。 少し焦げてしまったけどおいしく炊きあがったきのこの炊き込みご飯、味付けでコショウを入れすぎて香りが強くなった山姥の天狗汁、おかわり盛りだくさんの秋色サラダ、生地が厚く焼くことに苦戦したチヂミの4品を分かれて作りました。みんなで作った料理を食べて、お互いに「これおいしいね!」と褒め合いながら楽しい夕食の時間にしていました。

11/20 収穫祭

1年間の山村留学の中で最も大きな行事「収穫祭」を行いました。収穫祭は、「感謝の式」と「体験発表」の2部構成です。午前中は1年の農作業を振り返り、その収穫に対する感謝をしました。午後の「体験発表」では、子ども民謡保存会の民謡披露に始まり、個人体験の発表、太鼓や民舞、心の収穫のスピーチを行いました。日々の生活の中で少しずつ準備を進めていったので、発表直前まで子どもたちは「緊張する~!」「全然自信ない…」と心配そうな様子でした。発表後は「思ったよりも楽しくできた!」と晴々とした表情をしていました。







11/23 赤かぶ漬け

冬場に向けた保存食づくりの体験のひとつとして、赤かぶを 漬けました。畑で採れた赤かぶと貰いものの赤かぶの髭や傷な どを削ぎ、塩と一緒に漬けました。ひとつひとつ形が違う大き な赤かぶを手に、「ここの部分は食べられる?」と注意深く皮を 削いだり、傷を削ったりしていました。2~3日後には、酢や砂 糖を入れて漬け込みます。あわせて、畑で採れた野沢菜も醤油 漬けにしました。

今月の畑作業

今季最後の畑作業は、収穫と畑の片付けをしました。この日は雨模様でしたが、晴れ間を縫ってみんなで手際よく作業しました。大きな大根や漬物にする赤かぶだけでなく、虫食いの野沢菜や小さな人参も「これも食べられるよ!」と持ち帰り、きれいに洗っていました。寒い中、マルチをはがす作業や畝をならす作業もしっかりと。雪の降る前に畑を片付けることができてひと安心です。



利賀みらい留学に寄せて

Q. 留学生と生活をして、感じていることは何ですか?

自分からああしたい、こうしたいとやりたいことを言って、甘えられるようになってきているなと 感じています。一緒にいろいろなことを経験したり、留学生を通して様々な交流が生まれたりと私た ちにとっていい刺激があります。また、子どもたちから楽しみや健康、元気をもらっていて、子ども たちが来るとなれば、いろいろとやる気が出ます。

一人でも生きていく力・知識(火を起こす力、この野菜が食べられるかどうか、これぐらいの道な ら歩けるかどうかなどを判断する力など)が身に付いてきていて、春の姿と比べてたくましくなって きたなとも感じています。

Q. 留学生に望むことは何ですか?

仲がいいので、そのまま良い関係を続けてほしいです。修園してからも 集まりがあればきっと盛り上がるだろうし、そういうつながりが 今だけでなく大きくなってからも続けばいいなと思います。

どこかで利賀のことを思い出して、第2のふるさとのようになって くれればいいなと思っています。



米倉 洋子 さん (受け入れ家庭)

うちの息子が中学三年になる年にイ人だった同級生が4人になりました。新学期に学校へ行き始 めてみたら淋しさが実感されてか息子の登校の足取りがとぼとぼとなってしまい、すごく心配した 事がありました。そんな頃、役員をしていた関係で出てくれと言われた会合が、 山村留学についての説明会でした。利賀の子には有難い話だと思いましたが、 うちの子はもう卒業してってしまうし、当事者になられる親たちはどう思うのか 心配していました。この春から朝食のお世話にかかわっている事もあり、 利賀の子の親御さんにどう思っているのか聞いてみたところ、子供が すっごい喜んでいると話しておられて嬉しくなりました。うちの子なら 「まだなんかないがぁ?」と言いそうなおかずの時もあるのにいつも 「おいしかったです!」と元気に食べてくれる子供達と関わらせてもらって、 こちらが元気をもらっています。

これからの雪も心配ですし、朝に弱い私ですががんばらせてもらいます。



笹川 眞知子 さん

《くき爺のつぶやき》



南砺利賀みらい留学 統括主幹 山本

天竺温泉で馴染みの方に「夜の冷え込みが厳しくなって…」と声をかける と「寒暖の差が激しいから利賀村産は味がいいんだよ」と。なるほど…。セ ンターの子どもたちも季節の移ろいと共にいい味を出してきたと油断して いたら体調を崩す子が続出、20日に予定していた収穫祭を実施か延期かで 直前まで逡巡した。幸いなことに前日にはみんな回復、地域の方々に懇切丁 寧に教えていただいた体験に基づく発表や民舞、太鼓を披露し、来場者の瞼 をうるうるさせた。今年はコロナ禍で実施出来なかったが、来年は親子で模 擬店を並べ地域の方との交流の場を設けたいと思う。